

PROGRAM NOTE

わたしのBCLライフ JSWC-2857 植之原 耕治 (愛知県豊川市在住)

拙著「世界の短波放送攻略法（A4版 72頁 大林印刷有限会社印刷 2008年10月1日発行）をお読みになればすべて書いてありますが、私の人生はほとんど短波放送と共にあります。今でこそHCJBにはQSLを請求しませんが、なにぶんにも、自作の受信機で最初に確認できた放送局が“HCJB”なので、人生の続く限りHCJBは第二の故郷になっています。

1957年夏のことでした。叔父故「田淵哲夫」といっしょに自作したO-V-1受信機でHCJBをキャッチしたので、私の短波放送受信も浅からぬ歴史を持っています。普通なら大学受験で、短波など聞いている場合ではなかったのですが、職業を選ぶ時も、

短波放送を聴ける職業を選びました。ですから、途中で日本語放送の聞き流しという期間はありましたが通算60年近い歴史があります。私の人生=私の受信の歴史という数式で申し上げても差し支えありません。最初、ラジオを自作したのが中2のときでした。小遣いを250円？！を貯めてトランジスターラジオを自作しました。たったの250円ですよ。2500円でもなく、ましてや、25000もありません。高校生になっても、寮にラジオを持ちこんで聞いていたら、舍監の外国人S先生に注意されました。寮にはいろいろ決まり事が多くありましたが、私は、ひたすら短波放送を聴ける大学、学部に入るための勉強しかしませんでした。

最初は、電子工学科に入りましたが、ラジオをきけないと分かって、一番楽に、しかもできるだけ長く居れることを考えました。なので、8年の期限いっぱい居ました。ある女性は、年齢は一緒なのですが、“今年の進級生は老けていますね”なんて言っていました。その人も今は70歳代の筈です。もちろんBCLは欠かせません。なかなか信じてもらえないのですが、QSLカード（受信証）をもらえるなんて10年くらい知りませんでした。どうしてかと言いますと、叔父がまったく集めていなかったのです。私どもの高校は、ミッション・スクールで、英語はもちろん、ブラザーたちは普段はフランス語で話していました。月曜の朝礼は、校長先生のお話は英語でしたが、とくに地方からきた1年生にはチンパン、カンパン・・・3年生になってようやく分かるようになりました。

大学に進学してようやく9R59Dを買いました。1968年でした。ただ、ここで一生の「大事件」に遭遇します。「交通事故」で意識不明となり、進級は遅れるし、ラジオは聞けないし・・・そして、もうひとつ私の人生での大事件がありました。300mの巨大アンテナ・・・（これも拙著に書いたことですが）山と山の間の下宿に住んでいた時の出来事です。アンテナ設置をめざしたのですが、その間が約300m。リード線の先に少し重さのある石をつけて先ず中間地点をめざして投げたとたん「ドカーン」という音響とともに数万ボルト電線がショート！！爆発！！ 谷間に爆音が響き渡ったのです。人々が何事かと家から飛び出したのが山の上なのでよく見ました。「そうか・・・電線を飛び超えて向うに渡すのは素人じゃ無理か・・・」今思うとなんと何と浅はかな考えだったのでしょう。

琵琶湖（長浜）でのリスナーの集いには、4000mのアンデスの山から下りられて、今は米国のおられる尾崎先生にお会いしたい思いで出かけました。私にとっては、アンデスだけでなく、世界の街々・・・人々・・・要するに、広い世界が好きで、そこに興味があるのです。そのために、これからも電波で世界をかけまわります。これが私のBCLライフです。

サタデー・トーク		バイブル・トーク	
きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		東京淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
9月06日	四国・中国HCJBリスナーの集い (3)	9月07日	旧約聖書を訪ねて：聖書遊覧バス (68)
9月13日	四国・中国HCJBリスナーの集い (4)	9月14日	旧約聖書を訪ねて：聖書遊覧バス (69)
9月20日	HCJBリスナーの集いin 琵琶湖 (1)	9月21日	リスナーからの『お便り交換の時間』
9月27日	HCJBリスナーの集いin 琵琶湖 (2)	9月28日	旧約聖書を訪ねて：聖書遊覧バス (70)

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.org>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間 午前7時半～8時 15525kHz (再放送) 午後8時00分～8時30分 15400kHz
(米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信)

